

薬用植物園かわらばん

いま、こんな草木も楽しめますよ！
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ・・・



2025年
3月15日
第169号



アツバチトセラン (キジカクシ科)

温室内、南側の鉢植えでかわいい花が咲いています。アフリカ原産の多肉植物で、かつてリュウゼツラン科サンセベリア属に分類されていたことから、現在でも慣用名としてサンセベリアと呼ばれて観葉植物として流通しています（現在はキジカクシ科ドラセナ属）。アフリカでは民間薬として、葉の絞り汁を切り傷、すり傷、白癬に塗布して利用されているそうです。中医学では葉が虎尾蘭（コビラン）という生薬となり、清熱解毒、活血消腫を目的に、感冒、咳嗽、気管支炎、打撲傷に利用するそうです。葉のエキスが「皮膚の状態をよくする」という具体的に内容が不明な目的で化粧品に配合されたり、俗に葉からマイナスイオンが放出されて空気清浄効果があると言われていますが、実際の効果は不明です。

ハナキリン (トウダイグサ科)

温室内、北側の鉢植えで、多肉で棘が密生した茎の先に赤い花が咲いています。マダガスカル原産の低木で、イエス・キリストが被らされた茨の冠が本種だったという伝説があるとか。ヨーロッパでの民間薬として、地上部を鎮咳、催吐を目的に使用したり、インドのアーユルベータ医学では駆虫や健胃、止瀉を目的に使用するそうです。中医学では花が虎刺梅（コシバイ）という生薬となり、排膿、解毒を目的に、おでき、水腫などに使用します。園芸ではカタツムリなどの害虫駆除に使用されます。実際、樹液にホルボールエステル類を含むので、触ると目や皮膚に炎症を起こしたり、内服すると胃痛や喉の炎症を起こすことがあるので、注意が必要です。